

# 令和3年度 学校経営計画



広島県立廿日市西高等学校

## 令和3年度学校経営計画

令和3年度～令和6年度(1年目)

校番	067	学校名	廿日市西高等学校	校長氏名	田中 勲	全・定・通	本・分
----	-----	-----	----------	------	------	-------	-----

### 1 教育目標

—本質追求—  
 変化の激しいこれからの社会を生き抜くために、問題から逃げずに本質を突き詰めようと他者と協働し、繰り返し挑戦することのできる人材を育成します。

### 2 育てたい(幼児・児童)生徒像

困難な状況においても、自ら前向きに考え、それを周りに示すとともに、周りの意見にも耳を傾け、決断し行動できる生徒。

### 3 中期(3年間)経営目標 ※教育活動その他の学校運営に関する目標

- (1) 社会の形成者の育成に向け、主体的・対話的で深い学びをつくる。
- (2) 困難状況において他者と協働し、解決に向けて挑戦し続ける力を育てる。
- (3) さまざまな教育活動において、自己実現の達成に向けた支援体制を構築する。

### 4 短期(本年度)経営目標及び行動計画等 ※中期(3年間)経営目標を達成するための本年度の経営目標及び行動計画等

中期(3年間)経営目標  
 (1) 社会の形成者の育成に向け、主体的・対話的で深い学びをつくる。

短期(本年度)経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値(前年度)	目標値
進路目標実現に向けた教科学力と高みに挑戦する態度を育てる。	進路希望の実現に向け、個別面談を継続的に実施し、個に応じた情報提供や丁寧な学習アドバイスをを行う。また模擬試験の事前指導や事後の振り返り学習等、模試分析を有効活用する。	スタディーサポート2年第2回における受験生準備順調型(家庭学習充実かつ成績良好者)の比率	新規	60%
ICTを効果的に活用して、個に応じた主体的な学びを構築する。	生徒個々の実態に応じた学習や、協働的な活動を支援するためのICTの効果的活用について各教科で年間授業計画を策定し、実践する。	授業評価アンケート「ICT機器の活用により学習に対するモチベーションが向上した」の評点平均(4段階評価)	新規	3.0
家庭学習の習慣化を図る。	個人面談等を通じ、宅習記録を活用した学習方法の助言等を行い、家庭学習の定着を図る。また、学年ごとに各教科の課題内容を集約・把握し、組織的に指導する。	1日平均学習時間30分未満の生徒の割合	平時 12.8% 試験週間 3.3%	平時 10% 試験週間 0%

中期（3年間）経営目標

(2) 困難状況において他者と協働し、解決に向けて挑戦し続ける力を育てる。

短期（本年度）経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値 (前年度)	目標値
生徒自らが探究活動に取り組み、自ら考えたことを他者に向かって表現する力を養う。	廿日市市等との連携のもと、SDGsの視点を取り入れた「ふるさと探究」を軸に「総合的な探究の時間」を再構築し、3年間のロードマップを策定するとともに、実践を行い、年度末に発表会を開催する。	「総合的な探究の時間」に関するアンケートの生徒自己評価肯定率	—	65%
基本的な生活習慣を身に付けさせ、当たり前前（前）のことが当たり前前（前）にできる意識を育てる。	基本的な生活習慣の確立に向け、遅刻ゼロをスローガンに毎日の登校指導に加え、家庭との連携を強化し指導の徹底を図る。	1日の平均遅刻者数	5.3	4.0人
学習環境の整備に向け、協働して校内美化に取り組む。	生徒会主導で校内掲示板や校内放送により生徒の環境美化意識を高めるとともに、清掃点検の実施や大掃除の回数を増やす取組を行う。	大掃除を含めた校内美化活動の回数	新規	毎月1回

中期（3年間）経営目標

(3) さまざまな教育活動において、自己実現の達成に向けた支援体制を構築する。

短期（本年度）経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値 (前年度)	目標値
学校行事（合唱祭・文化祭・体育祭、クラスマッチ等）の意義を踏まえ、生徒の活躍の場として活性化を図る。	学校行事における生徒満足度を高めるため、生徒会執行部が各種委員会活動の充実を図り、全生徒を巻き込んだ準備・運営を展開する。	合唱委員会・体育委員会・文化委員会の開催合計回数	新規	8回
地域ボランティア等の自主活動や、外部機関・団体と連携した交流活動を推進する。	学校外機関や異校種校との連携を図り幅広いボランティア活動の機会を得るとともに、生徒会や部活動と連携し、積極的な参加を促す。	ボランティア等自主活動への参加総数（延べ数）	403人	410人
		ボランティア等自主活動での他校との交流回数	新規	年2回
世界の文化の多様性の理解に向け、異文化間交流活動を推進する。	諸団体が企画する異文化間交流活動への参加を積極的に奨励する。また、姉妹校等海外の学校とのオンライン交流を学校として1回以上行う。	学校としてのオンライン異文化間交流の回数	新規	年1回

<働き方改革に関する短期（本年度）目標>

教職員が達成感や充実感をもち、生き生きと働くことができる職場環境を整える。

短期（本年度）経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値 (前年度)	目標値
教職員の長時間勤務の縮減に向けた業務改善を推進する。	計画的かつ効率的な時間の活用法や、部活動指導の在り方等、業務改善について教職員で意見交換ができる研修を計画的に実施する。	時間外勤務時間60時間／月以下の職員の割合	新規	60%
教職員の生徒と向き合う時間の確保に向けた職場環境の整備を図る。	中間評価時に各分掌で年間業務量を再確認し、部内分担の見直しを図る。また、年度末評価時に次年度への改善に向けた課題を整理し、集約・共有する。	業務改善アンケート（教職員）「児童・生徒と向き合う時間が確保できている」の肯定率	55%	60%

別紙：現状分析

① 進路実績

年度	大学	国公立大学 合格者数	短期大学	専門学校	就職	その他
平成30年度	43%	4名	13%	30%	9%	3%
令和元年度	49%	2名	9%	28%	9%	5%
令和2年度	43%	2名	15%	33%	6%	2%

② 主要進学先大学合格者数

年度	広島修道大学	広島経済大学	広島国際大学	安田女子大学	広島女学院大学	広島工業大学
平成30年度	24人	17人	8人	10人	7人	14人
令和元年度	15人	11人	8人	8人	12人	11人
令和2年度	32人	29人	6人	4人	16人	11人

③ 授業評価アンケート肯定率

	年度	1年生	2年生	3年生
あなたはこの授業を受けることで 学ぶ意欲が高まった。	平成30年度	77.4%	78.5%	83.4%
	令和元年度	81.0%	74.5%	83.2%
	令和2年度	76.6%	77.8%	80.5%
先生はポイントを押さえて説明し ている	平成30年度	90.1%	90.8%	91.6%
	令和元年度	91.9%	90.4%	94.4%
	令和2年度	92.3%	93.8%	92.8%
先生は生徒の私語や居眠り、授業 態度等についてきちんと指導して いる	平成30年度	87.6%	90.3%	89.0%
	令和元年度	87.2%	88.3%	89.1%
	令和2年度	89.4%	89.3%	86.0%

④ 問題行動・遅刻者数

年度	特別指導件数	1日平均 遅刻者数
平成30年度	80件 71人	3.9人
令和元年度	43件 35人	4.2人
令和2年度	17件 25人	5.0人

⑤ 保健室来室者数（内科的訴え）（延べ数）

	総数	1年生	2年生	3年生
平成30年度	1,051人	237人	420人	394人
令和元年度	936人	288人	269人	379人
令和2年度	767人	229人	219人	319人

⑥ 主な課外活動

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
部活動加入率(%)	75.0%	70.4%	63.8%
ボランティア活動参加数(校外)(人)	142人	222人	1人
ボランティア等自主活動参加数(総数)	455人	481人	403人
検定(3種)受検者数(人)	184人	183人	70人
英語検定(延べ人数)	69人	109人	57人
漢字検定(延べ人数)	102人	67人	(学校受検を中止)
数学検定(延べ人数)	13人	7人	13人
保育・看護体験(人)	51人	48人	(コロナ感染予防で中止)
英語ブラッシュアップ参加(人)	10人	8人	(コロナ感染予防で中止)
N.Z.語学研修参加者数(人)	0人	0人	(コロナ感染予防で中止)